

北浦の「水変わり」、回復の兆し

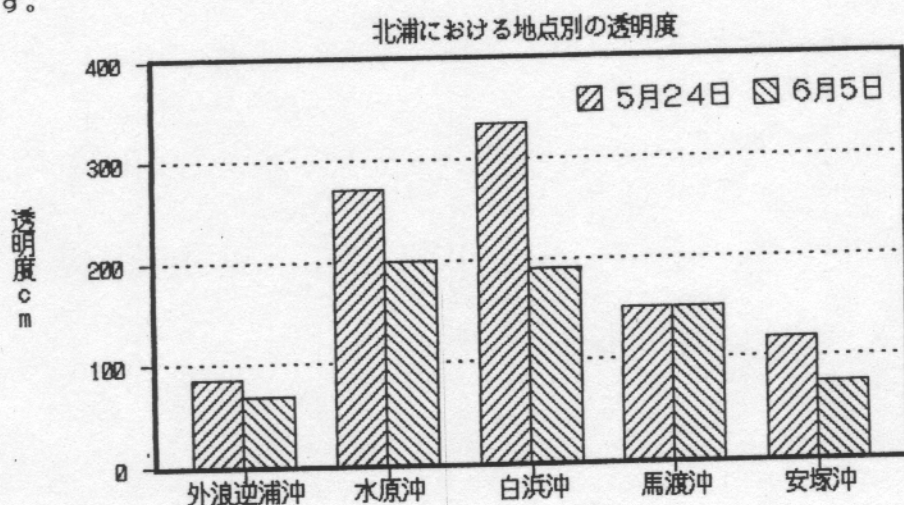
内水試「かわら版 No.128」でお知らせしましたように、5月の中頃から北浦で「水変わり」の現象が起こり、水原沖や白浜沖の透明度（25cmの白色の円盤を水中に沈めて、円盤が見えなくなる水深をいい、数字が大きいほど水が透明であることを意味する。）が、300cm前後も示しました。

例年ならこの時期の透明度は、約100cm程度ですから非常に透明になったことがわかります。

この「水変わり」は、水中の植物プランクトンが急激に枯死することによって起こりますので、北浦の水中でも植物プランクトンは極端に少なくなり、代わりに動物プランクトンが大量に増殖していました。

しかし、6月5日に行った透明度の観測では、図に示したように水原沖では200cm、白浜沖では190cmと、透明度の低下がみられ、「水変わり」が次第に回復してきている様子が見られます。

水中の酸素量も、下の図に示したように、植物プランクトンが増殖するのに連れて、表層でも底層でも多くなってきているようです。



また、5月24日にはあれほど大量にいた動物プランクトンも、今回の観測ではぐっと少なくなっていました。晴れた日が続けば、「水変わり」の回復も早いのですが、これからは梅雨の時期ですので、時間がかかるかもしれません。

この「水変わり」の前後から、「張網」や「いさざ・ごろひき網」の漁獲量が減っており、大変心配な状態になっています。

死んだ魚類等が大量にみられたり、あるいは網の中に入ったという様子もありますが、「水変わり」が解消した後の漁模様が、以前のように戻るのか、今後とも調査を行っていく予定です。

